

資料提供	
平成29年10月30日	
担当 (担当者)	水産試験場 (太田)
電話	0859-45-4500

## 2017年(平成29年)漁期 沖合底びき網におけるズワイガニの見通し

### ○解禁直後(鳥取沖・隠岐北西沖・出雲沖)

松葉がに…資源尾数は前年を若干上回り、平年(直近3カ年平均)を上回る

若松葉…資源尾数は前年を若干上回り、平年を上回る

親がに(雌)…資源尾数は前年並で、平年を上回る

### ○漁期全般

漁獲量は前年並～上回る

### 【解禁直後の見通しの根拠となった情報】

調査船「第一鳥取丸」による調査結果 10月5日～26日にかけて、山陰沖の水深186m～432mの海域において、合計27の調査点で着底トロールによる漁期前調査を行いました(図1)。調査海域内における漁獲対象となるズワイガニの推定資源尾数(単位=万尾)は表1のようになりました。

表1 調査海域におけるズワイガニの推定資源尾数(単位=万尾)

区分	2014年	2015年	2016年	2017年	前年比	平年: 2014-16平均	平年比
松葉がに(甲幅9.5cm以上)	53.2	38.5	51.5	54.7	106%	47.8	115%
若松葉(甲幅10.5cm以上)	133.8	423.6	345.6	364.5	105%	301.0	121%
親がに(くろこ)	174.5	198.8	230.9	229.0	99%	201.4	114%

※くろこ：漁獲対象となる茶黒色や黒紫色をした卵を持ったメスガニ

**松葉がに：**隠岐北西沖で減少したものの、前漁期に若松葉の漁獲が好調であった鳥取沖で増加したため、推定資源尾数は前年比106%、平年比115%となりました(表1、図2左)。

甲幅9.5～12cmの小～中型個体が主体ですが、前年に比べ甲幅12cm以上の大型個体が多い結果となりました(図3、4)。

**若松葉：**前年同様に出雲沖、隠岐北西沖で推定資源尾数は多く、前年比105%、平年比121%となりました(表1、図2中央)。サイズも前年同様に、甲幅10～12cm台の小～中型個体が主体となりました(図3、4)。

**親がに：**出雲沖、鳥取沖で増加したものの、隠岐北西沖で減少し、推定資源量は前年比99%、平年比114%となりました(表1、図2右)。サイズは前年同様に甲幅7～8cm台の小～中型個体が主体となりました(図3)。

### 【漁期全般の見通しの根拠となった情報】

(1) 鳥取県の沖合底びき漁業による漁獲量の推移 本県のズワイガニ漁獲量は2004年(1,587ト)まで増加しましたが、その後は減少～横ばいで推移しています(図5)。

2016年漁期の漁獲量は松葉がに230ト、若松葉137ト、親がに569ト、合計937トで、前年(925ト)及び平年(929ト)を若干上回りました。

(2) 水研調査(調査月：5-6月)：国立研究開発法人水産研究・教育機構は、日本海A海域(富山県以西)における2017年漁期当初のズワイガニ資源量について、カタガニ(松葉がに)、ミズガニ(若松葉)は前年を上回り、メスガニ(親がに)は前年を下回ると推定しています(図6-7)。

(3) まとめ 第一鳥取丸の調査結果から調査対象海域では、メスガニの資源は維持されています。オスガニの資源は、資源回復の兆しが見えていますが、大幅な増加は見込めないものと考えています。このような状況から、鳥取県沖合底曳網漁業協会は、兵庫県沖合底曳網漁業協会と協力して資源管理の強化を進めており、今漁期は、隠岐西方海域に 84km<sup>2</sup> のミズガニ保護区（周年の操業自粛）を新設するとともに、前漁期から新たに開始した 11 月の休漁についても 48 時間から 72 時間に延長しています。

### 今後の資源状況

甲幅 10cm 以下のオスの未成年ガニが非常に多く、順調に成長し、漁場に参加すれば来年漁期も漁獲量が上向くものと考えられます。しかし、雌雄ともに甲幅 6~7cm の未成年ガニが少ないことから、2019 年漁期にメスガニ、2020 年漁期にオスガニが減少すると考えられます。このため、未成年ガニが多量に入網する海域での操業自粛や、小型ガニの再放流に加え、ズワイガニ漁期外での改良網（小型のカレイ類、ズワイガニを逃がすことが出来る網）の使用頻度の向上等により、資源保護に努める必要があります。

**ホームページ** 本報告は水産試験場ホームページに掲載しています。トップページの「調査研究」からアクセスできます。

URL : <http://www.pref.tottori.lg.jp/secure/1091053/2017kanikani.pdf>

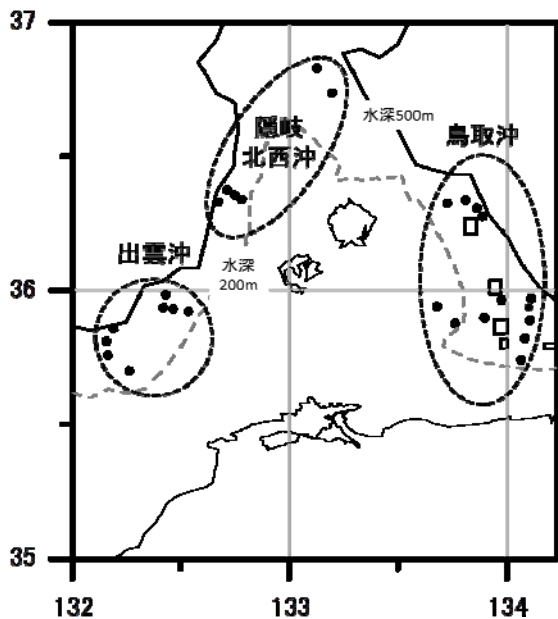


図1 試験操業位置（図中黒丸が操業位置）

### その他

2015 年漁期から「とっとり松葉がに」のうち、大きさ・品質・型とも最上級の松葉がにをトップブランド「特選とっとり松葉がに五輝星」として販売を開始しました。

（五輝星の基準）

大きさ	甲幅 13.5cm 以上
形状	脚が全てそろっているもの
重さ	1.2kg 以上
色合い	鮮やかな色合い
身入り	身が詰まっていること

2016 年漁期は約 49 万枚水揚げされた松葉がにの中から、130 枚（平均 3.6 万円/枚）が五輝星に選定されました。本調査結果から今漁期は、大型の松葉がにが前漁期より多いことが予測されおり、前漁期よりは多くの五輝星が市場に並ぶ可能性があります。

図2 年別海域別の資源尾数 (2013-2016年：平年は2013-15年平均値)

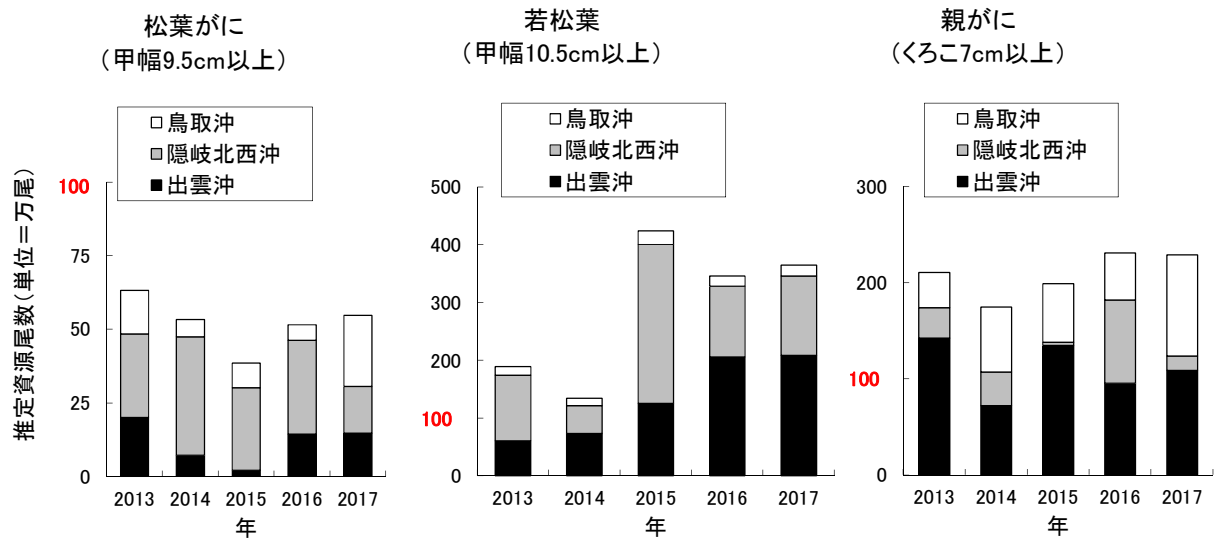


図3 トロール網による調査海域全域におけるズワイガニ甲幅組成の推移 (2013-2016年)

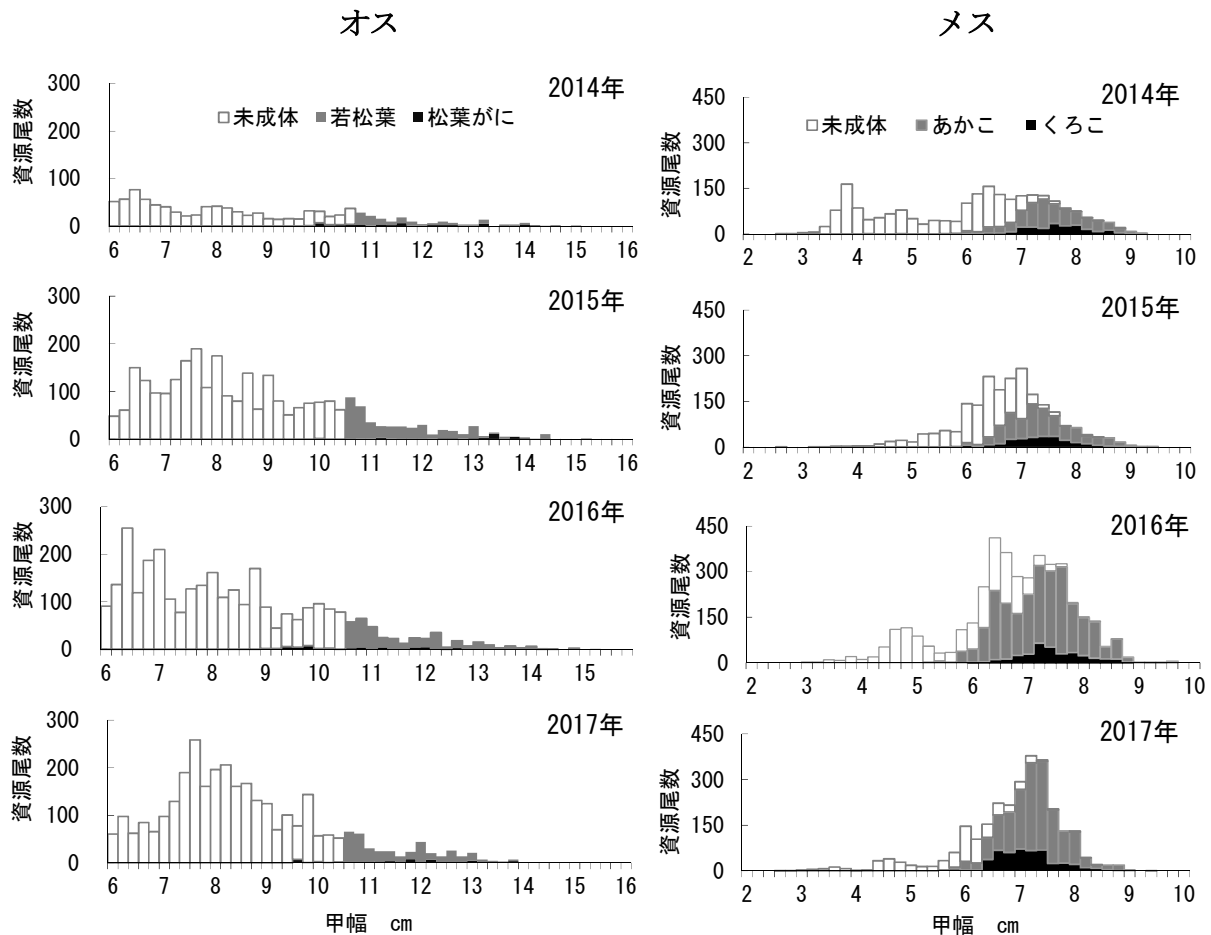


図4 トロール網による調査海域全域における漁獲物サイズの雄ズワイガニ甲幅組成の比較 (2016,2017年)

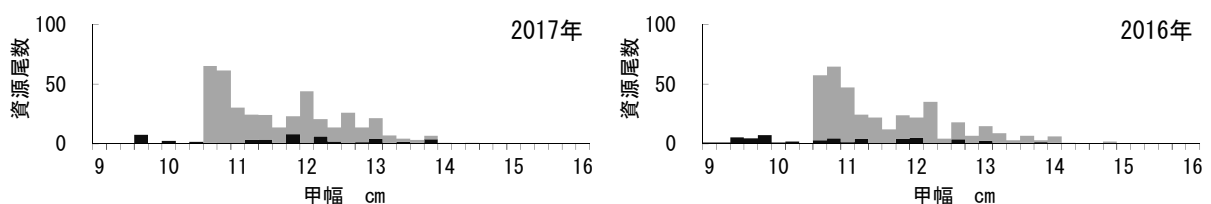


図5 鳥取県におけるズワイガニの漁獲量（漁期年：11月6日～翌年3月20日）

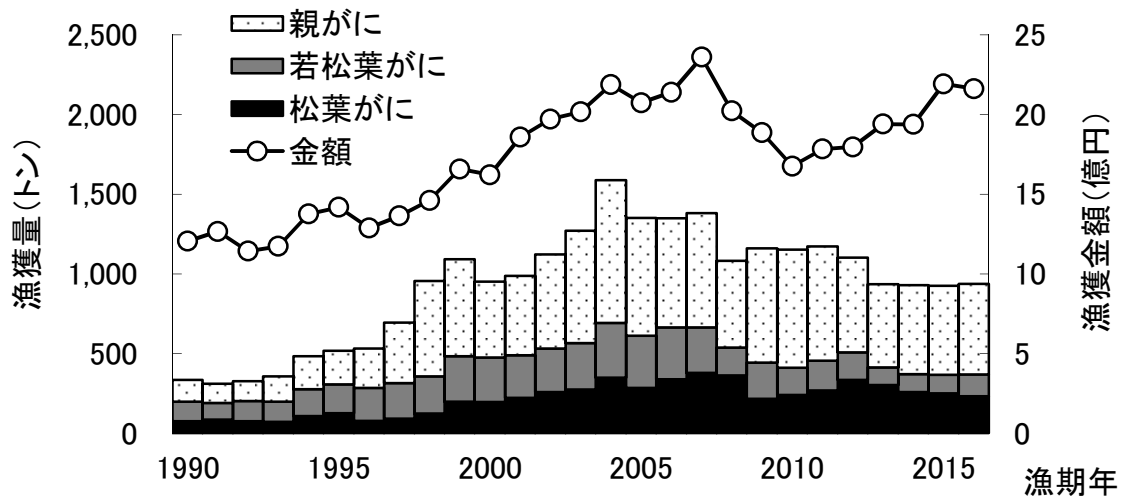


図6 A海域（富山県以西）におけるズワイガニ雄の資源量

国立研究開発法人 水産研究・教育機構 日本海区水産研究所資料

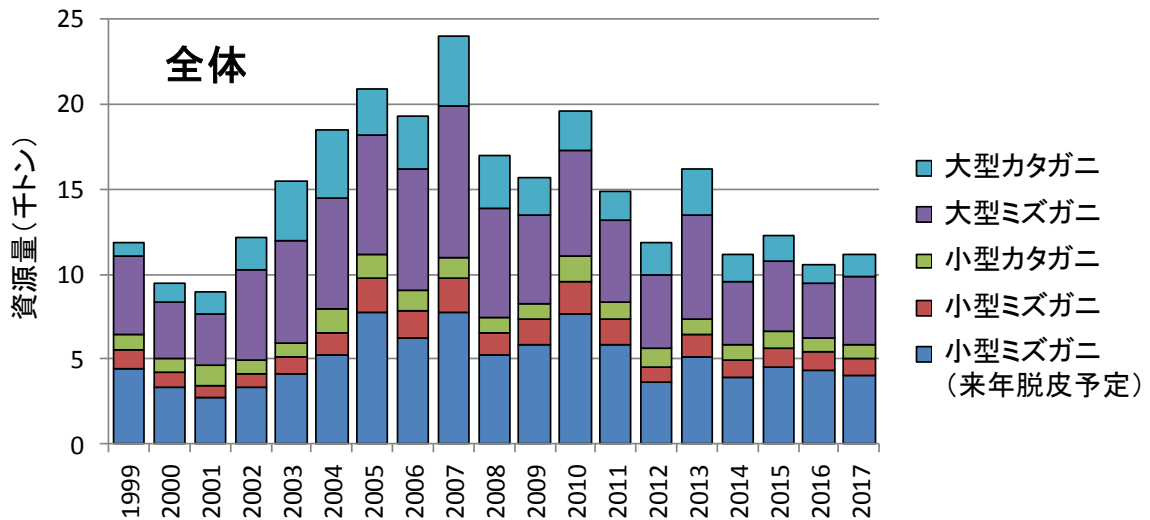


図7 A海域（富山県以西）におけるズワイガニ雌の資源量

国立研究開発法人 水産研究・教育機構 日本海区水産研究所資料

